

# 「ボケずに漢方、ボケたら漢方」

11月6日(土)、東京・新宿明治安田生命ホールで行われた今回の講演会は、高齢

化社会の中で元気に老いる方法の中に漢方治療を取り入れることがテーマだ。会

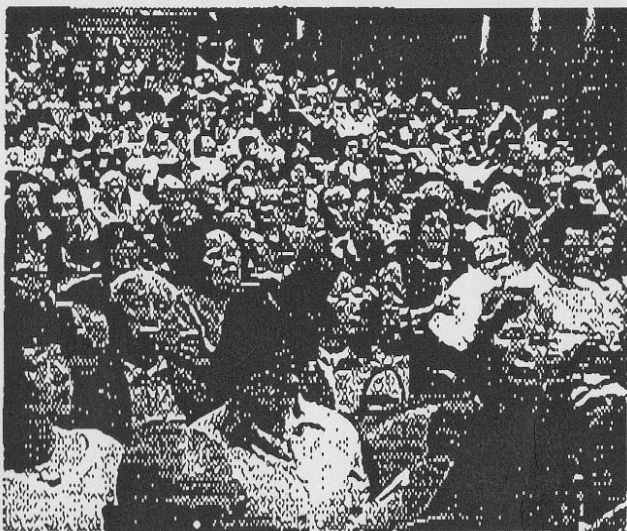
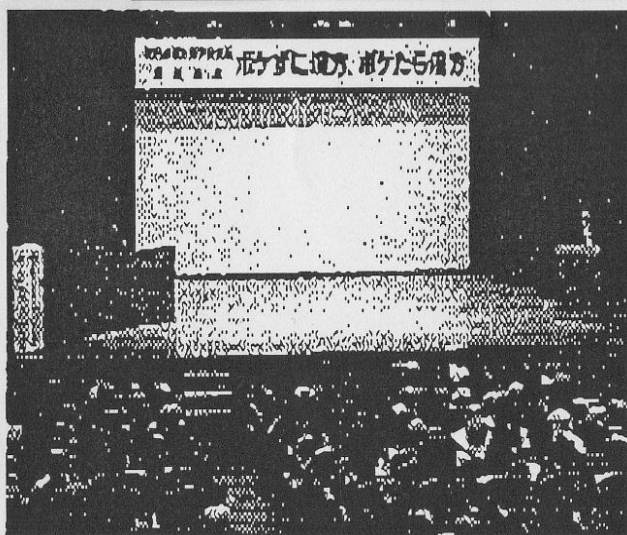


工藤千秋氏

は満場の参加者で埋まり、老いに対する関心の高さがうかがわれた。

●2人の高齢者医療に携わる医師による講演会

工藤千秋氏(くとうちあき脳神経外科クリニック院長)は「人生の黄昏に向かって『漢方は脳を輝かせます』と題して、脳の仕組みや痴呆障害のメカニズムを、脳の断面画像を示しな



①会場の新宿明治安田生命ホール  
②健康に関心のある参加者で溢れた

から解説した。「脳炎や脳腫瘍などに起因する痴呆は

早期発見で治る」と述べ、早期の診察を勧めた。また

高齢者に多い脳血管性痴呆と若年でも発症するアルツ

ハイマー型痴呆の違いを解説。脳機能を元気にする漢

方薬として釣藤散、茵陳解毒湯、当帰芍薬散を紹介し

た。

蓮村幸兌氏(特別養護老

人ホーム愛全園園長)は、

30年の長きにわたり医師の立場で高齢者の生活介護施設の医療に携わってきた。

「たとえボケても漢方薬で保てるー快眠、快食、快便、快感」と題した講演の冒頭

で「重度痴呆の老人でも適切な治療や看護で改善が見

られ、本人や家族を不安や混乱から救うことができ

る」と述べ、特別養護老人ホームにおける医師や看護

師の必要性を訴えた。

講演では「漢方薬は患者の体質、症状と合う投薬が

必要「むやみに投薬しても意味がないが、証が合えば

劇的に奏効する」として、自身の高齢者臨床例を20例以

上、解説しながら示した。



蓮村幸兌氏